

2025 年度 さくら日本語学院 自己点検・評価報告書

2026 年 3 月報告

(期間:2025 年 4 月 1 日から 2026 年 1 月)

日本語教育機関の告示基準の第1条第 1 項目第 18 条に従い、当学院に関する自己点検・評価を行い、報告書を作成した。尚、報告書の作成に当たり、点検・評価項目リストは、文化庁国語科実施のアンケートの調査項目に従った。

<p>総括(達成状況、課題など)</p> <p>2024 年度につきましては、コロナ感染症が収まり多くの留学生が入学し、2026 年 3 月に卒業するに至った。地域交流については、近隣の高等学校からの依頼により職場体験で生徒を受け入れ、地域団体との文化体験や地元海岸の清掃、日本語教室のボランティア活動、イベント参加など、校外の方と接する機会をより増やすことができた。2026 年度に向けては、生徒が良好な出席状況を維持し、将来の目標をしっかりとたせるために教員一丸となって研修や自己研鑽に取り組み、教育、日本語能力の質を向上させていきたい。</p>

自己点検・評価リスト(A:達成している B:一部達成している C:改善が必要)

1 教育の理念・目標		評価
1 教育の理念・目標	1-1 教育理念・ミッション	A
	1-2 教育目的・目標	A
	1-3 育成する人物像	A
	1-4 教育内容が地域や社会にニーズに合致していることを確認している	A
	1-5 理念、教育目標及び育成する人材像が教職員及び学生に周知されている	B
<p><現状・具体的な取り組み、課題></p> <p>本学院の教育理念や教育目標及び育成する人材像教育の周知は、教職員研修等で周知している。生徒に対しては、「学生のしおり」を使用しながら、グローバル社会で活躍できるような人材教育、国際化・多文化共生教育を行っている。しかし、生徒の現在の語学力では理解できないところもあり、育成する人材像とは必ずしも合致しない場合もある。よって今後は簡潔かつ的確に指導できるものに改め教育を行っていく。</p>		
2 学校運営		評価
2-1 組織体制(中項目)		評価
2-1(小項目)	2-1-1 事業規模に応じた組織体制になっている	A
	2-1-2 受け入れようとする生徒の言語に対応できる組織となっている	A
	2-1-3 各職務内容及び責任と権限が明確に定められている	A
	2-1-4 教育目標達成に必要な教員の知識、能力及び資質が明示されている	A
2-2 運営方針や事業計画(中項目)		評価
2-2(小項目)	2-2-1 短期及び中長期の組織の運営方針と経営目標が明確にされ、教職員に周知されている	A
	2-2-2 管理運営の諸規定が整備され、規定に基づいた運営がなされている	A
	2-2-3 意思決定が組織的にシステムとしてなされ、かつ、効率的に機能している	A
	2-2-4 業務の見直し及び効率的な運用の検討が定期的かつ組織的に行われている	A
	2-2-5 コンプライアンス体制が整備されている	A

2-3 人事(職員の採用, 育成と待遇)や財務管理に関する規定は適切か(中項目)		評価
2-3(小項目)	2-3-1 教員及び職員の採用方法及び雇用条件が明文化されている	A
	2-3-2 教員及び職員の研修等による教育の質の強化のための取組をしている	A
	2-3-3 財務管理に関する規定が明文化されている	A
	2-3-3 教育機関としての信頼を高めるため, 倫理観, 振舞い, ハラスメント防止等に関する研修を行っている	A
	2-3-4 教員及び職員の評価を適切に行っている	A
2-4 情報の共有化及び発信(中項目)		評価
2-4(小項目)	2-4-1 行政や日本語教育関係機関等の外部からの情報提供が効率的になされ, かつ, 共有化する仕組みがある	A
	2-4-2 教育機関の内部からの情報発信が効率的に行われている	A
	2-4-3 入学希望者・学習者及びその利害関係者(経費支弁者等)の理解できる言語で情報提供を行っている	A
<p><現状・具体的な取り組み、課題></p> <p>日本語教育機関の告示基準に準じて学校運営を行っている。学校運営は年度ごと業務の見直し、効率的な運営の検討が行われており、目標達成のための組織改革を推進している。また、職員間で情報共有、定期的にミーティングも随時実施している。生徒からの相談や苦情等の対応は、各担任をはじめとして教職員一体となって行っている。これにより、生徒は安全で充実した生活が送れているものと考え。</p>		
3 教育活動		評価
3-1 教育活動 (中項目)	3-1-1 理念・教育目標に合致したコース設定が行われている	A
	3-1-2 教育目標達成に向け体系的な教育課程(教育内容, 教育方法及び進度等)が設計されている	A
	3-1-3 レベル設定に当たっては, 国内または国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にしている	B
	3-1-4 教育内容及び教育方針について教員間で共通理解が得られる	A
	3-1-5 成績評価や進級, 修了の判定基準は明確にされ, 適切に運用されている	A
	3-1-6 教育目標に合致した教材が選定されている	A
	3-1-7 授業に必要な学習リソース及び情報を教員に提供している	A
	3-1-8 教員の指導力向上のための取組が実施されている	A
	3-1-9 教育課程の改善のための取組が行われている	B
<p><現状・具体的な取り組み、課題></p> <p>教職員の研修会及び講師会において、本学院の教育理念・目標を明確に説明している。教材選定は、教務会議で学生の理解度、学習目標に合わせて選定する。クラス編成に関しては、スケールメリットを生かし柔軟に対応している。また、教員間で授業見学や各種ミーティングを行うことを通じて教材研究の推奨や指導技術の向上を図っており、定期的に教材・教授法などについて教員の研修会も行い外部の研修会にも参加するなどして、質の高い授業を目指して教職員一同努力している。これらの取り組みについては特に若手教員が中心となってこれらに積極的に参加しており、今後より一層効果が期待できる。</p>		
4 学修成果		
4-1 授業評価(中項目)		評価

4-1(小項目)	4-1-1 授業評価を定期的実施しているか	B
	4-1-2 評価体制, 評価方法及び評価基準が適切であるか	A
	4-1-3 生徒による授業評価を定期的実施しているか	A
	4-1-4 評価結果が教育内容や方法の改善, 教員の教育能力の向上等の取組に反映されているか	A
4-2 授業及び教育支援の実施 (中項目)		評価
4-2(小項目)	4-2-1 授業開始までに生徒の能力を試験により判定し, 適切なクラス編成を行っている	A
	4-2-2 教員に対して, 担当するクラスの生徒の学習目的, 編成試験の結果, 学習歴その他指導に必要な情報を伝達している	A
	4-2-3 開示されたシラバスによって授業が行われている	B
	4-2-4 教育内容に応じて教育用機器を活用している	A
	4-2-5 授業記録及び出席を正確に記録し, かつ教師間で効率的に共有している	A
	4-2-6 理解度・到達度の確認が実施期間中に適切に行われている	A
	4-2-7 生徒の自己評価を把握している	B
	4-2-8 個別学習指導等の生活指導担当者(学習支援担当者)が特定され, 適切な指導・支援が行われている	A
	4-2-9 授業が運営に関する生徒からの相談, 苦情等の担当者が特定され, 適切に対処している	A
	4-2-10 学習内容, 時間割と学年暦, 成績判定の基準と方法, 学習上の留意点, 留学生生活上の留意点, 入管法上の留意点とこれらについての相談担当者名が記載された文書を, 入学時に生徒に配布している	A
4-3 成績・成果の判定(中項目)		評価
4-3(小項目)	4-3-1 判定基準及び判定方法が明確に定められ, 開示されている	A
	4-3-2 成績判定結果を的確に生徒に伝えている	A
	4-3-3 判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証している	B
	4-3-4 進級及び卒業判定が定期的に行われている	A
	4-3-5 日本留学試験, 日本語能力試験等の外部試験の結果を把握している	A
4-4 進路に関する支援(中項目)		評価
4-4(小項目)	4-4-1 生活指導担当者(進路指導担当者)が特定されている	A
	4-4-2 生徒の希望する進路を把握している	A
	4-4-3 進学, 就職等の進路に関する最新の資料が備えられ, 生徒が閲覧できる状態にある	A
4-5 卒業生の状況の把握(中項目)		評価
4-5(小項目)	4-5-1 卒業生の状況を把握するための取組を行っている	A
	4-5-2 卒業後の進路を把握している	A
	4-5-3 進学先, 就職先等での状況や卒業生の社会的評価を把握している	B
<現状・具体的な取り組み、課題>		

<p>入学時より、生徒の日本語能力の理解度、成績等を定期的に確認し、クラス替えを行い、生徒が最適な環境での授業ができるように努めている。個別の学習支援に関しては現在担任がその全てを行っているが、授業内容、理解度は他の教職員に随時口頭もしくは文書等で共有している。</p> <p>進路支援に関しては、進路担当を中心に教職員一丸となって取り組んでいる。本年度は生徒数が多く大変であったが、職員一同助け合って行って来た。</p> <p>進学先等の把握についても例年教務主任や進路担当などが率先して教職員一丸となってこれに取り組んでいる。今後も継続していく所存である。</p>		
5 生徒支援		
5-1 支援体制(中項目)		評価
5-1(小項目)	5-1-1 生徒支援計画を策定し、相談等の支援体制が整備されている	A
	5-1-2 休日及び長期休暇中、災害など緊急時の生徒対応ができています	A
	5-1-3 日本社会を理解し、適応するための支援ができています	A
	5-1-4 生活に関するオリエンテーションを実施している	A
	5-1-5 地域交流や地域活動を実施している	A
5-2 安全管理(中項目)		評価
5-2(小項目)	5-2-1 健康・衛生面について指導する体制を整えている	A
	5-2-2 重篤な疾病や傷害のあった場合の対応を定めている	A
	5-2-3 感染症発生時の措置を定めている	A
5-3 危機管理(中項目)		評価
5-3(小項目)	5-3-1 火事、地震、台風等の災害発生時の避難方法、避難経路、避難場所等を定めている	A
	5-3-2 災害等に対する避難訓練を定期的に行っている	A
	5-3-3 防災用品が備蓄されている	B
5-4 生活面における支援(中項目)		評価
5-4(小項目)	5-4-1 住居支援を行っている	A
	5-4-2 アルバイトに関する指導及び支援を行っている	A
	5-4-3 交通事故等の相談体制が整備されている	A
	5-4-4 定期的に健康診断を実施している	A
	5-4-5 生徒全体の生活状況について定期的に調査している	A
	5-4-6 生徒が意思疎通できる言語で常に相談対応ができる体制を整えている	A
5-5 納付金(中項目)		評価
5-5(小項目)	5-5-1 入学検定料、入学金、授業料及びその他の納付金の金額及び納付時期が明示されている	A
	5-5-2 学費以外に入学後必要になる費用が明示されている	A
	5-5-3 関係諸法令に基づいた学費返還規定が定められ、公開されている	A
<p><現状・具体的な取り組み、課題></p> <p>生徒に対する支援については、学生部のスタッフも含め教職員全員で取り組んでいる。特に地域社会との交流に関しては積極的に参加している。</p> <p>生徒支援についても、語学力が不十分な学生に対し不安が少しでも軽減されるように様々な施策で支援を行っ</p>		

<p>ている。項目の 5-4-6 に関しては、近年のAI技術の進展により学生・職員双方の負担やストレスが解消されつつあると感じている。</p>		
<p>6 教育環境</p>		
6-1 教育機関として適切な環境にあるか(中項目)		評価
6-1(小項目)	6-1-1 校地・校舎面積は、「日本語教育機関の告示基準」に適合している	A
	6-1-2 安定的に教育活動を継続するための校地及び校舎が整備されている	A
6-2 教室, その他の施設は「日本語教育機関の告示基準」に適合しているか(中項目)		評価
6-2(小項目)	6-2-1 教室内は十分な照度があり, 換気がなされている	A
	6-2-2 全ての教室は, 語学教育を行うのに必要な遮音性が確保されている	B
	6-2-3 授業時間外に自習できる部屋が確保されている	A
	6-2-4 教育内容及び生徒数に応じた図書やメディアが整理され, 常時利用可能である	A
	6-2-5 視聴覚教材など, ITを利用した授業が可能な設備や教育用機器が整備されている	A
	6-2-6 教員及び教員の執務に必要なスペースが確保されている	A
	6-2-7 同時に授業を受ける生徒数に応じたトイレが設置されている	A
	6-2-8 法令上必要な設備などが備えられている	A
	6-2-9 廊下, 階段等は, 緊急時に危険のない状態である	B
<p><現状・具体的な取り組み、課題></p> <p>校舎・教室の設備については建物が古びたりしている面もあるが、法令を遵守し適宜整備を行っている。しかしながらバリアフリー対策は懸案事項であり、今後の検討課題である。設備等の設置や改修を検討している。一方 IT を活用した授業については、数年前より電子黒板を導入し、教材も工夫して授業を展開しているが、これらについては学生たちより「わかりやすくなった」との声も多数聞いている。今後は、更に IT を活用した教材開発や授業の展開を見据えた研修なども実施したい。</p>		
<p>7 入学者の募集</p>		
7-1 募集方針(中項目)		評価
7-1(小項目)	7-1-1 理念・教育目標に沿った生徒の受入方針を定め, 年間募集計画を策定している	A
	7-1-2 募集定員を定めている	A
	7-1-3 機関に所属する職員が入学志願者に対して情報提供や入学相談を行っている	A
7-2 募集活動(中項目)		評価
7-2(小項目)	7-2-1 授業料, 教育内容, 教育成果を含む最新かつ正確な学校情報が, 入学希望者の理解する言語によりインターネット上で開示している	A
	7-2-2 求める生徒像を明示している	A
	7-2-3 応募資格及び条件を入学希望者の理解できる言語で明示している	A
	7-2-4 募集活動を行う国・地域の法令を遵守した募集活動を行っている	A
	7-2-5 海外の募集代理人(エージェント等)に最新かつ正確な情報提供を行っている	A

	る	
7-3 入学選考(中項目)		評価
7-3(小項目)	7-3-1 入学選考基準及び方法が明確化されている	A
	7-3-2 生徒情報を正確に把握し、提出資料により確認を行っている	A
	7-3-3 入学選考を行う体制が整備されている	A
	7-3-4 受け入れるコースの教育内容が志願者の学習ニーズと合致することを確認している	A
<p><現状・具体的な取り組み、課題></p> <p>募集は、現地エージェントに最新の情報を提供し、学生に不安がないようにしている。また、入学選考に関しては、これの基準や方法を明確にして行っている。入学志願者の学習能力、勉学意欲、日本語能力の確認は、面接に加えて日本語試験を行い生徒の状況は把握できる試験体制をとっている。本年度より、生徒部スタッフのみならず教員も参加しオンラインでの面接を行っており、今後はより志願者の学習ニーズに沿った指導ができるようになるものと期待している。</p>		
8 財務		評価
8-1 財務状況 (中項目)	8-1-1 財務状況は、中長期的に安定している	A
	8-1-2 予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれている	A
	8-1-3 適正な会計監査が実施されている	A
	8-1-4 予算編成が適切になされ、かつ効率的に機能している	A
	8-1-5 財務情報の公開の体制はできている	A
<p><現状・具体的な取り組み、課題></p> <p>財務状況については安定しており収支計画・予算編成についても妥当性を持ったものだといえる。またこれらの情報に関しては公開の体制づくりがなされている。中長期的に安定した財務状況であり、予算の策定、収支計画についても滞りなく実施している。適切な人員配置と業務の効率化等による経費の適性配分については、社労士や税理士にも相談の上、取り組んでいく体制を確立させている。</p>		
9 法令遵守		
9-1 法令遵守等についての指導を適切に行っているか(中項目)		評価
9-1(小項目)	9-1-1 法令遵守に関する担当者を特定している	B
	9-1-2 教職員のコンプライアンス意識を高めるための取組を行っている	A
	9-1-3 個人情報保護のための対策がとられている	A
	9-1-4 出入国在留管理庁ほか関係官庁等への提出、報告を遅延なく行っている	A
	9-1-5 自己点検・評価の実施と改善及び公開を適切に行っている	A
9-2 入国・在留関係に関する指導及び支援(中項目)		評価
9-2(小項目)	9-2-1 担当者は、研修受講等により適切な情報取得を継続的に行っている	A
	9-2-2 入管法上の留意点について生徒への伝達、指導等を定期的に行っている	A
	9-2-3 在留に関する生徒の最新情報を正確に把握している	A
	9-2-4 在留上、問題のある生徒への個別指導を行っている	A
	9-2-5 不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者等を発生させないための取組を継続的に行っている	A
	9-2-6 過去 3 年間、不法残留者、資格外活動違反者及び犯罪関与者を発生させ	A

	ていない	
	9-2-7 在留期間更新手続きの指導や一時帰国などに関する指導や支援を行っている	A
<p><現状・具体的な取り組み、課題></p> <p>日本語教育機関を運営するにあたって必要とされる法令を遵守し、各機関への届出、報告を滞りなく行っている。また、教職員へのコンプライアンス意識を高めるため、研修等を実施している。さらに個人情報漏洩の防止対策として学内にて研修会を実施している。</p> <p>在留関係の指導について、「留学」に関する最新情報の把握を定期的に行い、生徒への指導を定期的に行っている。特に、資格外活動違反がないよう日々注意喚起を行っており、今後も違反者や不法残留者が出ないように、より厳格に指導を行っていく。</p>		
10 地域貢献・社会貢献		評価
10-1 地域貢献・社会貢献 (中項目)	10-1-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っている	A
	10-1-2 生徒のボランティア活動を奨励・支援している	A
	10-1-3 地域住民と定期的に交流活動をしている	A
	10-1-4 地域の伝統行事等に積極的に参加している	A
	10-1-5 域内の地方公共団体や国際交流団体、自治会等と連携・協力体制を構築できている	A
<p><現状・具体的な取り組み、課題></p> <p>近隣地域のイベントや祭り等に参加し、近隣の清掃活動、ボランティア活動を通じて、地域に貢献できるよう努めている。また、オンライン授業を海外の日本語センターと協力して無償で開講するなど日本語能力の向上に努めている。</p>		